

平成 29 年 1 月 12 日小方地域まちづくり対策特別委員会 議事録  
10 時 02 分 開会

○細川委員長 おはようございます。定足数に達しておりますので、ただいまから小方地域まちづくり対策特別委員会を開催します。

それでは議事日程に従って進めさせていただきます。

まず日程 1、今後の活動についてを議題といたします。

最初に、皆さんにメールまたは F A X でお知らせしていると思いますが、その内容では本日の意見交換の目的などについてうまく伝わっていない部分もあるのではないかと思いますので、改めて説明させていただきます。

もともと本日は、前回の特別委員会の最後で、オガールプロジェクトについてのさらなる分析・協働の作業、共有の作業をしていこうということで終わっておりました。それをちょっと変更することについて、皆さんには大変申しわけなく思っておりますが、実は今後のスケジュールを考えていったときに、既に市のほうは基本構想の素案づくりに取り組んでおまして、委員会のほうでも意見を言う機会をとということで求めています。

今週 18 日には委員会でのワークショップの機会も取らせていただいておりますが、その後、素案がまとまってまいりましたら、意見を言う機会を取らせていただけるといいます。そういうことで、その意見を述べる機会が 2 月の下旬もしくは 3 月上旬あたりにあるのではないかというスケジュールになってくるといいます。ということで、基本構想の制定に向けてもう少し委員会として意見を言えるように、委員会としてというよりも、委員の皆様個人個人で意見を言えるように委員会として少し準備をしたらどうかというほうに考えました。

そうするとオガールプロジェクトのほうは皆様御承知のとおり、基本構想の策定段階よりも相当進んでいる事業でありまして、基本構想の策定に向けて意見を述べる今の段階でオガールプロジェクトの分析作業をするよりは、ほかのことをしたほうがより効果が上がるのではないかと判断いたしました。

ということで、本日は基本仕様書、以前企画係のほうから小方地区のまちづくり基本構想策定業務における基本仕様書というのを皆様にも配付させていただいて、説明をさせていただいておりますが、その中の理念をもう少し深めたらどうかと考えております。そうしたほうが、この次の 18 日のワークショップにおける建設的なアイデアの提案とか業者から提示された素案に対する主体的な意見につながってくるのではないかと考えました。ということで、基本構想 4 つあるんですけど、その中の一番最初が J R 新駅設置を前提として周辺の既存資源との連動による相乗的効果も見据え、遊休地を活用して一帯の魅力を向上し、にぎわいを創出する。これが一番最初に出ておりますから、その辺を少し皆さんの御意見を出し合ってみたらどうかということです。

ということで、きょうはそこから出したテーマとして 3 つほど、既存施設について何があるのか、他市にはない大竹市の魅力……

[発言するものあり]

○細川委員長 日域委員、大丈夫ですか。

○日域委員 大丈夫ですけど、どうなるのかなと思って。

○細川委員長 今からどういうふうにしようかを話しますので、少し集中してください。

皆様のお手元に意見交換用ワークシート、ありますか。

ワークシートをお配りさせていただきました。意見交換のテーマとして3つ。小方地区が中心にはなると思いますが、それにはこだわらず、大竹市において有効活用できる既存施設というのは例えばどんなのかがあるか。もちろん魅力に結びつくというふうに考えてください。もう1点は、例えば今はなくても、他市にはない近隣の岩国、廿日市市ですよ、そういったところのない大竹市の魅力にはどんなことがあって、それをどういうふうに活用できるものができるだろうかということですよ。3点目には、にぎわい創出についてどうしたらいいかと。人が集まってくるような施設やそのために必要な魅力というのはどんなのがあるかということについて、グループに分かれまして自由に意見を出してみたらどうかと思いました。

グループに分けるのは、全員のこの場だとなかなか自由な意見が出にくいというふうに考えておまして、前回のオガールの勉強会のときにも、もう少し自由に物が言える環境で話したらどうかというのを提案させていただいておりますので、2グループに分かれて、それぞれ自由に出してみても、それぞれの思いを否定することなく、いい点をくみ上げるといった感じで出してみたらどうかと思います。その後、また各班から発表していただいて、皆で共有するという形で、きょうはそこらへんで委員会のほうを終了していきたいと思っておりますが、今までのところでどうでしょうか。

はい、日域委員。

○日域委員 それはそれで、委員長の意見を否定したらまずいんですけども、やっぱり今回一番のポイントはJRでしょうね。オガールと言われましたけど、オガールも長いこと失敗の歴史ですからね。今ああいう形でとりあえず成功になってますけども、あそこで説明を受けましたよね。あっち側の広い農地を何とかしようと、そしたら農業振興地域だったからこりゃ大変だと。農振の解除を申請したと。申請したけど、ただ申請と言ったんじゃ、解除にならなかったから、しょうがないから公共施設とか役場とか、ああいうものを持っていくんだというプランをつくったら初めて県のほうが農振を解除してくれたと。

その辺から経済状況がおかしくなって、しばらく頓挫していたという経緯をこの前行って聞いてきたわけですけども、あそこは駅はできましたよね。あの駅は請願駅じゃあないんでしょうけどね、そこまで記憶にないんですが。今回大竹の小方といえば、さっきの基本構想にも駅があることを前提ですけども、今投資をしてくださいと。でも駅はようわからんけど、JRとの交渉でそのうちできるでしょうというんでは誰も乗ってこないですね。そこが一番のネックで、でも大竹市の市役所の財政に聞いても、皆さんもそうでしょうけども、大竹駅の東口があって、そりゃ順番から言うたら東口が先よねと。東口やっつてから、小方やろねって皆さん異口同音におっしゃってるわけですから、その小方駅があることを前提にまちづくり構想といっても、なかなか難しいと思うんですが、とりあえず小方駅がなくてもこうするんだと、それでさらに長期展望で10年後、小方駅がぜひできる

ように持っていきたいという段階を踏んだ前提なら、それはそれで考えることが可能。私そう思うんですね。

だから小方駅のことについて、もっと極端に言えば、この委員会でJRに話を聞きに行きませんかと提案したいぐらいですけども。行ったってだめだとは思いますが、だめだとは思いますが、執行部の方がJRとどういう連中とどういう話をしとるんかなと、顔見てくるだけでも価値があると思いますが、JRの駅の時期ですよ、東広島の寺家でしたかね、あれが今度やっことし3月14日にオープンなんですけども、大昔からお金はある、条件そろってるとやりながらやっ、ことしできるんですけども、JRの駅って相手ごわいというか、時期まで考えたら相当大変ですから、だから前提に置くにはちょっと怖いなという気がしてまして、できたらJRはいつかできます。絶対できます。だからそういう想定で考えましょうというのが私はいいような気がします。以上です。

○細川委員長 ありがとうございます。済みません、私、言い方がよくなかったかなとちょっと反省しているんですけども、JR新駅があることを前提としてというふうにお話してないと思うんですけども、設置することを前提としてという今、考えできてると思うんですけども、微妙な違いなんですけど、今年度の事業でも小方新駅の企画のほうじゃなくて、もう一つちょっと今手元にないんですけど、新駅に向けての構想も事業に入っているところですし、委員会としてもあることをというよりも、日域委員がおっしゃったように、いずれできることを、つくることを前提にということで、委員会でも考え方できてると思いますので、それをお願いいたします。

ほかにありませんか。山本委員。

○山本委員 私は基本的な考え方としては、小方のこの地域をエリアとしては立戸の郵便局から恵川までの間というふうな執行部の考え方、この前説明がありましたが、そういうエリアの中で今の状況を、そこに住んでおられる人、将来住む人の利便性なり生活環境の快適性の向上なり、どうするかということが基本にあるわけで、まちづくりをいう場合は。そうなる小方の駅は今ないわけですから。小方の駅をつくることによって、よりそのエリアの皆さんの利便性なり、生活環境が向上するということを基本にした考え方で、小方駅は今から議会執行部を含めて地域の工場や商業施設もあるわけですから、そういう企業なり住民の皆さんの知恵、力も借りて、小方駅を実現するんだということを前提に議論しないと、できるかどうかはわからんが曖昧さを残したんじゃ、まちづくりと言っても結局は駐車場になってみたり、曖昧なことで終わるということになると思うんですよ。

だから委員会としては、小方駅は設置するんだと、そのためにはどうしたらええかいうことを議論することが大事だと思うんですよ。できるかどうかはわかりませんよというんじゃ、そりゃ、その他の施設や土地の有効活用にしても、小方駅ができるからこの土地の利用はこうあるべきだということにならないと、私は本当の意味のまちづくりということにならん思うんですよ。そういう意味で、私は小方の駅をつくるのをどうするかいうことを、まず委員会としても位置づけをして、できるんだから土地利用はこうあるべきだとか、交通体系はこうあるべきだとか、住民の集える施設はこういう施設が必要だとか、いふふうなことにならないと、議論は深まりもせんし、具体性も乏しゅうなると思うんです。

私はそういうふうにとるんで、小方駅は我々の力で行政と一体になって、また地域の皆さんとも一体になって、必ず実現させるということをやまず認識としてははっきりさせるべきだというふうに思います。

○細川委員長 ありがとうございます。日域委員の言われたことと、ちょっと違うけど大きな違いはないと、若干の温度差があるぐらいで、委員会としたら小方駅をつくりましょうということで動いておりますので、山本委員がおっしゃられたスタンスで皆様よろしくお願いいたします。

それでは、実は今から、くじを引いていただきまして、奇数をA班、偶数をB班でお願いしたいと思います。A班は応接室1、B班は応接室2を使っていただきます。委員長は実は奇数になりますので、私は固定のメンバーに入らずに両方のほうで、また疑問が出たときにお話をさせていただくということにさせていただこうと思います。

では事務局くじをお願いします。

確認いたします。A班が副議長と末広委員、山本委員。B班が日域委員、藤井委員、和田副委員長の3人をお願いいたします。

部屋のほうにはホワイトボードを用意してあります。それを使いながら意見交換をお願いしたいんですけども、大体30分ぐらいで1から3番までを終えていただきたいと思います。30分終わったらここに戻ってきて、自分の班の出た話を発表していただきたいんですけども、3人なんで司会者は必要ないと思うんですけども、発表の係だけを決めてから、発表の係の人がホワイトボードとかも書き込んだほうが、もし発表しやすければ、そういうふうにしてください。ということで3人の中で誰が発表するかを決めてから話し合いに入りたいと思います。できるだけ、いろいろ理由を聞くことはいいですけども否定はしないというスタンスで選択肢を広げるための意見交換というふうな考え方でお願いいたします。

それでは、ただいまより各班に分かれて話をお願いいたします。

暫時休憩といたします。

10時19分 休憩

10時55分 再開

○細川委員長 お疲れさまでございました。

それでは休憩前に引き続き、会議を開催いたします。

A班、B班に分かれていろいろと御意見を出していただいております。きょうは御自身のイメージも膨らませていただくということで、次につなげるためにというふうに考えておりますので、皆さんから発表していただいて、もっと聞きたいことがあれば質問の時間をとって、その辺で終わろうかなと思っておりますので、発表のほうをお願いいたします。

A班からお願いいたします。では、末広委員お願いいたします。

○末広委員 それではA班のほうの意見交換内容を、取りまとめてというよりもランダムな形の意見が出ましたので、幅が広がり過ぎてるかもしれませんが、概要を説明させていただきます。

1番、有効活用できる既存施設について。そういう中で大竹市の沿岸エリアの地勢をベ

ースに考察した場合、今執行部が検討していらっしゃるゾーニングが恵川橋から立戸の郵便局エリアだという話なんです、奥行きについての境目が曖昧なんです、そこに元の専門学校、山際ですね。峠を超えたらすぐ穂仁原もあるんで、そのぐらいまでのルート188のゾーニングも少し微拡大してゾーニングを設定したらどうだろうかということからベースにして、その範囲にある、この3月末までに整備予定の固定資産台帳のベース情報を基本に中身を見て、その中に大竹市所有の資産やそういうものがどんなものがあるかを再確認した上で、総合的に考えたらどうじゃろうかということは一つ宿題として残した中で、今わかっとなる範囲でいいますと、大竹・小方・玖波エリアの今現在なり、今まで出てきた御意見の中での3つのエリアの中の小方地域はスポーツ施設や商業用地を中心にしたということがありますので、その地域役割を踏まえて小方港もあるわけですから、阿多田も範囲として考えれば、海もある意味では周辺市町にない大竹の資産なんで、夜景やお城山や穏やかな瀬戸内海の海も、ある意味ではこの範囲であろうというような考察につながりました。

その結果として、にぎわい創出、これから先の地域間競争を考えれば、若者の誘引力を高めるというような基本方針を持つべきであろうということで、中には最初にいただいた賀屋委員からの御意見の中にもありましたですけれども、大竹の資産は水ですので、人口減ということは逆に水の権利が余ってきとることですよね。その辺を活用すれば、オガールがニッチなスポーツとしてバレーを選んできましたけども、水泳を選んだらどうだろうということで、水はある、工場の熱源エネルギーもあれば、ひよっとして活用できれば温水プールの設定も可能かもしれんなというので一つ例として具体的なテーマとしてスポーツ施設を考えるのであればプールはどうだろうかというのが意見として出ました。その辺が駅周辺の総合開発の中でまあ賀屋さんの資料の中には大型複合施設なんかあるんですが、それは御意見いただいておりますので、それ以外の要件で出たものが概要としてそういう内容につながっております。

以上、A班としてはそのぐらいでよろしいでしょうか。

表現されてるのが、ちょっと私が不在の間に山本先生がおっしゃってくださった範囲ですけれども、ここにも、つながっとなる若者向けの政策、地域の、この価値というのは恐らく資産価値という意味ではなくて魅力という意味だとは思いますが、そういう面で地域の魅力の拡大を高めることが、せっかくのこの地域のゾーニング開発においては視点として必要だろうということ表現されたんだと思います。そんなことでよかったですか。

[発言するものあり]

○山本委員 以前、神尾市長時代に玖波の港側、トンネルのここを出たところ、あれから大野へ向いてトンネルがまたあらあね。あの間に、海浜公園をつくるという構想を神尾市長時代に打ち出された時期がある。図面までできて、それであそこへヨットハーバーつくるとかというようなことも含めて、そのときにこの晴海の開発を神尾市長が手がけて、今、野球場ができたり商業施設ができとるんですが、その海側を海水浴場として利用できるような浅瀬をつくるという構想を、あのときに神尾市長の構想でなかなかそのときは漁業者との調整とか、瀬戸内の埋め立ての問題とかの規制が絡んどったから、実現にはなかなか夢の

ような話じゃったんですが、今となつてはこの間陳情が出ましたよね。

東口の隣の空き地を、あそこを整備するのに関係するんですが、神尾市長の構想を復活させるというのは夢としちゃ、あつてもええんじゃないかと思います。あそこなら大竹で海で泳げるという夢やね。それはプールのあれも悪いことはないが、せつかくあそこは市民が憩える公園として、将来整備しようというんなら、将来の夢として、あそこで海水浴ができると。浅瀬をつくるというようなことは夢として持ってもええんじゃないかなというところもつけ加えて、私なりの意見としては検討してもろうたらどうかと思うんですが。

○細川委員長 ありがとうございます。聞きたいことはとりあえず両方聞いてからということにしたいと思います。

ではB班お願いいたします。はい、日域委員。

○日域委員 このワークシートをもとに話をすると、有効活用できる既存施設について、インターチェンジが近いとか海が近いとか、阿多田島が沖にあるとか、亀居城もあるという感じですが。このあれによると、他市にはない大竹市の魅力、水が豊富。にぎわい創出について、これは今から言います。あのですね、今A班のおっしゃったことと同じ大竹のことですから、かなり重なってます、考え方は。ひょっとして一番のキーワードはよそ者、ばか者、若者というのがあるじゃないですか。

要するに大竹で凝り固まったんじゃ、大した知恵は出んちゅうことです。偶然ですけども、私が思ったことは他人のアイデアです。もう一つは私は入ってないですけど、この大井さんと藤井さんの時代の市民の味方が前回のまちづくりのときに出したのって私初めて見たんですけども、それともちょっと共通してますけども、やっていること、考えたことは今すぐにはならないです。岩国大竹道路を掘ります。そしたらあのトンネルから莫大な残土が出ます。これはあの公共事業にとっても、それをどこへ持っていかかというのは大きな課題らしいんですよ。お金払って捨てたら莫大金がかかります。それを大竹市がもらって、海のほうに海浜公園をつくろうと言います。

言ってもいいですよ。これ、前の建設部長が持ってた案です。この委員会の彼がいる最後の段階でしたけど、案があるんかって聞いたら、私案は持ってます。ここじゃ見せられませんかと言ったから、しばらくして、そういや、あんな話があつたよねって見せてと言ったらこのアイデアだったんですけど、なかなかさすがに彼らは外部の人間ですし、その道の人間ですからアイデアいいなと思いましたが、広島から東方面、呉線沿線には海水浴場がたくさんありますと、西は由宇までないって言うんですよ。100万都市があつて大竹までまともな海水浴場ないから、駅があつてその近くに海水浴場があつて、その先に阿多田島もあるし、この辺をイメージ変えたら私は相当うまいぐあいいくと思いますよという絵まで見せてくれましたけど、それはたちまち見ても反論できないというか、なかなかいい案でした。

たまたま今、うちの会派もそれに似たこと書いてましたので、ダブっていいと思うんですけど、要はそういうことですけども、人口増といつても、土地はたくさんありますから、なかなか今の時代、土地を用意したら、人が来てくれて家を建ててくれるかといつたらそうでもないでしょうから、広島から便利がいいですよ。高速道路はあるしJRの駅もで

きたら、すごい便利なところですから、そこに海浜公園、由宇のようなやつをつくって、うまく行けばその延長線上に阿多田島がありますから、海につながりで向こうもハマチの養殖という既存のやつもなかなか苦勞しとるみたいですから、もうちょっとレジャー的なもので阿多田もそれに巻き込めたらいいのかなという気がしています。

ただ、欠点は残土というても、まだ用地買収してますから、さっきの駅とも絡みますけど、時期が未定なところがあります。ただ、さっき3人で話した中では駅もすぐにはことにならんやろうと。ほんで岩国大竹道路もしばらく先であろうと。だから残土を使うとか、駅を使うとか、いろんなものが条件がそろうのはしばらく先かなと思います。だから欠点と言えば欠点でしょうね。そんなところです。

○細川委員長 ありがとうございます。

補足ですか、田中委員。

○田中委員 1つだけ言います。小方新駅をつくるのは非常に難しいという今話がありました。たちまち市としても東口の整備が先で、その後に小方駅という話が。幸か不幸か、今岩国大竹道路の関係で国交省とそろって用地買収進めてる。ですから、この国交省が今回の小方駅新駅に向けての国交省に働きかけるということが大事なんじゃないかと思うし、またそのいいチャンスじゃないかと。逆に。だから何も無いのに、小方新駅を設置してほしいというのはちょっと難しい話かもわからんけども、岩国大竹道路は今工事も着々と進んでいるということであればガード下の整備と一緒に小方駅の設置ということについていけば国交省も、活用できるんじゃないかと。思わぬ国交省からの返事があるかもわからんし、いうことで、これは遠い先でないとい小方新駅は無理なんだという考え方はちょっとやめて、この岩国大竹道路にかこつけて新駅を設置という形をしっかりと国交省のほうに要望していくことも大事じゃないかと、そういう意見もありましたので、つけ加えておきます。

○細川委員長 ありがとうございます。補足意見、ほかにございせんか。B班のほうは、いいですか。

はい、日域委員

○日域委員 私から見たら、B班のアイデアは人のふんどしを借りているアイデアですけども、ただこれもついでに言わせてもらえば、大和部長が何を言っとったかという、このアイデアは県庁の中にはもう上がってますよということでした。知事には行ってません。その直前までは話は一応伝わってますからという話でした。だから、やっぱり今の田中委員の国交省の話じゃないですけども、大竹市が1人でしゃかりきになっても物ができませんから、やっぱり国とか県とかの理解というか、後押しがなけりゃだめじゃないですか。

そういうふうな、向こうにとっても都合のいいことを一緒に考えて、そういうタイミングを見て、わっとやらないといけないという意味では、結構可能性あるのかなという気はしました。

以上です。

○細川委員長 ありがとうございます。日域委員のほうの御意見も、田中委員の御意見も、いろんな力を借りてやったらどうかということだと理解いたしました。ありがとうございます。

ほかございませんか。ここもうちょっと聞いてみたいというのがあれば、質問時間をとりますが。いいです。イメージ膨らみましたか。

じゃあ、質問もないようですので、きょうはそれぞれちょっと似た共通点も随分ありましたが、次のワークショップに向けて、また何らかの皆様アイデアの創出に役に立てたんじゃないかと思しますので、きょうの協議はこの程度で終わりたいと思います。

18日ですが、皆様のほうにお知らせは既に行ってると思いますが、4階の第2会議室で13時30分より始めますので、それまでにはしっかりと議会のほうに来ていただくようお願いいたします。

傍聴の議員の皆様もできたら、参加の意思をきょう明日中に事務局のほうにお知らせいただければ、執行部のほうで担当のほうで用意をしていただけますので、どうか早目に出欠の有無をお知らせをお願いいたします。

きょう、同じ会派で参加されていない方にも委員のほうから参加していただけるかどうかの確認のほうを早目をお願いいたします。

よろしいですか。18日大丈夫です。山本委員大丈夫ですか。

ワークショップになりますので、委員会室ではなかなか形がつくりにくいという、委員会の主催というよりも、やっていただけるのは、あちらの委託先のほうのところワークショップ形式でやっていただけますので、場所のほうはここじゃなくて4階になります。多分ちょっと机の移動とかいろいろあると思いますので、それができるということだと思います。13時30分から。委員会違いますが、夜は小方の北詰交差点のことで、小方の皆さんとの意見交換もありますので、頭の中に入れとってください。

よろしいですか。何かありますか。

○日域委員 ここで聞かなくてもいいんですけど、4階の会議室って狭いですよね。

○細川委員長 全員来ても15人ですから、議員のワークショップですので。議員対象の。一般市民の対象じゃないですから、ということで一般の市民と一緒にないほうがお互いにやりやすいだろうということで、あの日のワークショップは……

[発言するものあり]

○細川委員長 済みません。説明が。一応うちの委員会のテーマですので、うちの委員会でワークショップをするんですけども、今回特例として、委員会外の委員の皆様にも参加していただいて、より多くの方のいろいろなアイデアを、必ずそれが反映されるとは保証は全くありませんが、アイデアの一つとして聞いていただいたらどうかということで、委員会外の議員の皆様にもお声をかけさせていただいております。

ということで、全員集まっても十分にということです。

よろしいですね。それでは18日は時間におくれないようによろしくをお願いいたします。

以上で終わります。お疲れさまでした。

11:15 閉 会